

社会と認識

# アフリカ学入門



担当教員 Instructor

## 鍋島 孝子

北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 教授



ブルキナファソの農村の人々

### The True Size of Africa

A small contribution in the fight against rampant *Immappancy*, by Kai Krause



モザンビーク海峡の夕日

○現代のアフリカを理解するために多角的な視点を提供する。教員の専門は国際政治学であるが、人類学、社会学、歴史学、文化論、経済学などのアプローチも試みる。

○現代のグローバル化の時代の中、日本から地理的、歴史的に遠いことを理由に、アフリカについて無知であることは許されるのか。アフリカの人々は何にどのように苦しんでいるのか。その苦悩の原因は、実は国際政治経済の構造的要因に端を発することがある。

○受講者はこういった問題提起を自らのアプローチから追求することが求められる。

到達目標

アフリカの1国に興味を持ち、講義によって得た理論や知識を駆使して、その国の問題の所在がどこにあるのか追求しようとする態度がレポートに見られること。アフリカの実情を調査する能力と、分析・洞察する能力が問われる。

成績評価

授業参加度(20%)、第7、8回の授業におけるグループ発表(30%)、指定図書のうち1冊を読破した後の期末レポート(50%)により評価。

授業計画

第1回：授業概要とビデオ、 第2回：アフリカの地理と文化、 第3回：帝国主義と植民地、 第4回：パン・アフリカニズムとナショナリズムの形成、 第5回：独立運動と国家建設：アフリカ的社会主义体制、 第6回：冷戦期のアフリカ紛争（コンゴ独立紛争、アンゴラ・モザンビーク、ソマリアなど）、 第7・8回：各国情勢の分析方法の講義と学生によるグループ発表会、

第9回：アパルトヘイト、 第10回：IMF世銀の構造調整、 第11回：民主化、 第12回：農村生活の変容、 第13回：現代の紛争:民族問題とPKO（ルワンダ、コンゴ東部紛争、コート・ジボワール、リベリア、シエラレオネ、スーダンなど）、 第14回：難民・教育・エイズ問題、 第15回：特別講師を招いての討論会